

悠久

第64号 January 2025

本号の内容

①再開された相互訪問交流	岡山県日中教育交流協議会	会長 鍵本 芳明
②上海市思言小学との交流を終えて	矢掛町立小田小学校 矢掛町立山田小学校	校長 片岡 聖子 校長 平田 日出子
③特別支援学校発、 特驚きと感動の国際交流	岡山県立東備支援学校	校長 清水 珠希
④上海市奉賢区教育交流訪日団を お迎え	岡山県立林野高等学校	指導教諭 西川 一美



上海市奉賢区教育交流訪日団一行

再開された相互訪問交流

岡山県日中教育交流協議会 会長 鍵本 芳明



昨年五月より、岡山県日中教育交流協議会会長に就任いたしました鍵本芳明でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

私事で古い話になりますが、私が初めて中国を訪れたのは、もう三十年以上も前の平成二年（一九九〇年）のことです。社会科の中学校教員であった私は、どうしても自分の眼で中国の様子や人々の暮らしぶりを見たくて、全国教職員互助団体協議会の旅行に応募し、中国へと旅立ちました。わずか一週間ほどの旅行でしたが、北京、上海、杭州と巡り、見るもの全てでその雄大さや歴史・文化の奥深さに圧倒されました。また、有難いことに訪問先に学校や農村も含まれていましたので、子どもたちの目の輝きや人々の温かさにも触れることができて、とても意義深い旅行であったのを今でもはっきりと覚えております。帰国後、早速当時の生徒たちに、社会科の授業の中で、その体験や人々との出会いを伝えながら、実際に訪問して現地の人々と触れ合うことの大切さを話しました。それ以来、私と中国とは、その温かい思い出によって今でも強くつながっています。

さて、私たちの岡山と中国との教育分野でのつながりは、諸先輩方のご努力により、教育交流及び青少年交流を促進し、日中友好を発展させることを目的として、岡山県日中教育交流協議会が平成十一年（一九九九年）に設立されてから本格的に始まり、時を重ねてすでに四半世紀が過ぎようとしています。この間、多くの中高生が中国を訪問し、友情の堅い絆を結び、その交流は現在へと脈々と受け継がれています。

残念ながら、昨年までの四年間は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、オンラインの交流のみでありましたが、それでも工夫をしながら、その絆をつないでまいりました。

現在の学習指導要領では、「日本型学校教育」の良さを生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける子どもたちを育成することが求められています。

この中で「対話的な学び」においては、児童生徒同士の協働による学習は勿論のこと、先生や地域の方々との対話など、多様な人々との対話や交流を通して、自己の考えを広げ深めることが求められており、そうした取組も年々盛んに行われています。さらに、グローバル化が急速に進む今日にあつては、「対話的な学び」は国内に留まらず、オンラインや対面の海外での交流も年々増加しており、こうした活動を通して、児童生徒たちは多様な文化や価値観に触れ、積極的にコミュニケーションをとりながら、相互理解を図っていくことの大切さや、国際社会の一員として協働していくことの重要性を学んでいます。

現在、残念ながら対立や分断の状況は世界のあちこちで見られ、その不安定さはますます増えています。しかし、こうした時代であるからこそ、私たち岡山県日中教育交流協議会は、諸先輩方が築いてこられた中国の方々とのつながりを大切にしながら、再開された相互訪問交流によって「対話」を進めることで、その絆をより確かなものにしていかなくてはならないと考えています。

十二月十七日から二十日までの四日間、本県の高校生六名を含む八名の訪問団が上海を訪れます。この訪問団参加の募集に当たっては、「実際に自分の眼で発展の様子を見て中国についての理解を深めたい」「中国の高校生としっかりと交流し多くのことを学びたい」とたくさんの方から応募がありました。今回の訪問も、意義深いものとなることでしょう。

日中教育交流協議会では、今後もこうした相互の訪問等を着実に続けながら、日中友好の絆をより確かなものとしつつ、その思い出が児童生徒の心につまみでも残り、一人ひとりの将来の自分の生き方にも影響を与えるような有意義な交流となっていくよう努めてまいります。